

新・ミューズニッチ米国BDCファンド (為替ヘッジなし・年2回決算型)

追加型投信／海外／その他資産

交付運用報告書

第8期(決算日2020年11月20日)

作成対象期間(2020年5月21日～2020年11月20日)

第8期末(2020年11月20日)

基準価額	8,481円
純資産総額	1,153百万円
第8期	
騰落率	18.6%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「新・ミューズニッチ米国BDCファンド(為替ヘッジなし・年2回決算型)」は、2020年11月20日に第8期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、「ハイインカムBDCマザーファンド」受益証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<643386>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

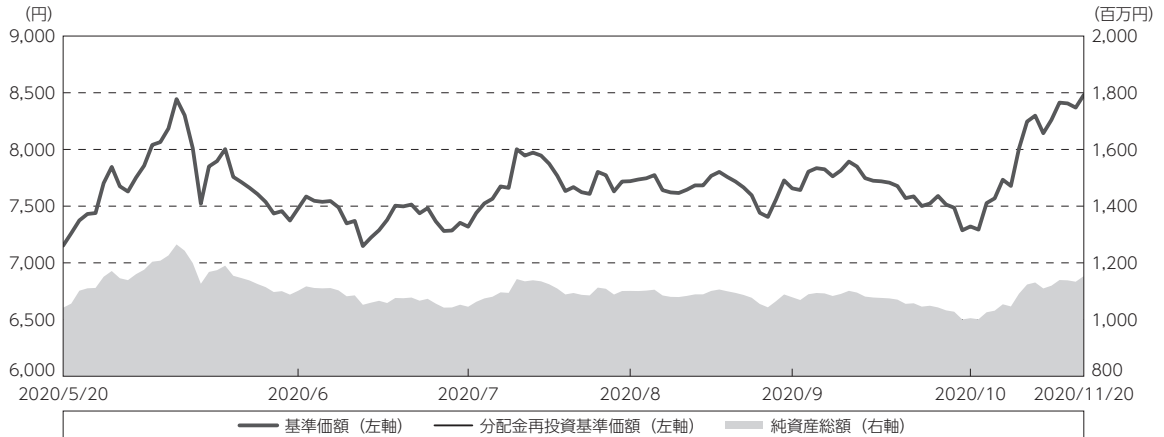
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2020年5月21日～2020年11月20日）



期 首：7,152円

期 末：8,481円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：18.6%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2020年5月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「ハインカムBDCマザーファンド」受益証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・投資先BDCから配当収入を得たこと。
- ・BDC市場が上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・円高/アメリカドル安が進行したこと。

1万口当たりの費用明細

（2020年5月21日～2020年11月20日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	77	1.026	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(44)	(0.582)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(31)	(0.416)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.011	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(1)	(0.011)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	5	0.063	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(1)	(0.008)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(4)	(0.049)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.004)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	83	1.100	
期中の平均基準価額は、7,528円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

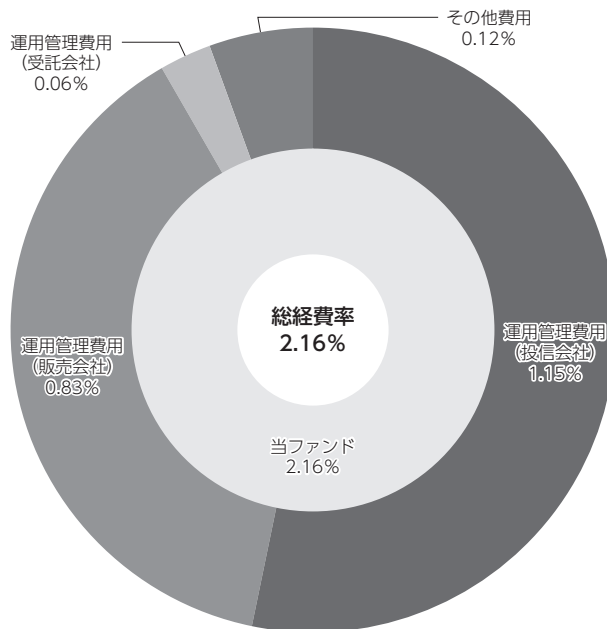
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.16%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

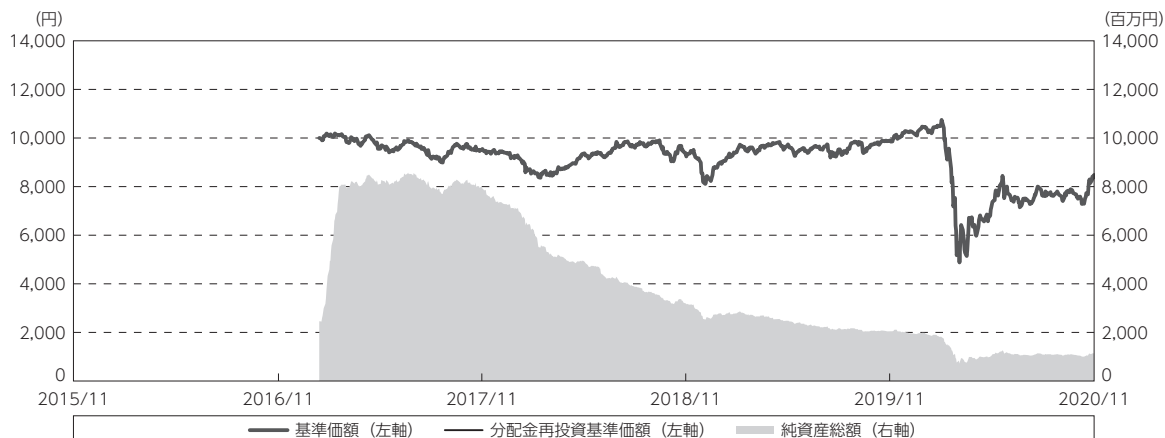
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2015年11月20日～2020年11月20日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2017年2月3日です。

	2017年2月3日 設定日	2017年11月20日 決算日	2018年11月20日 決算日	2019年11月20日 決算日	2020年11月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,513	9,376	9,898	8,481
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 4.9	△ 1.4	5.6	△ 14.3
純資産総額 (百万円)	2,458	7,987	3,198	2,046	1,153

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2017年11月20日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2020年5月21日～2020年11月20日）

（BDC市況）

BDC市場は期間の初めから期間末にかけて上昇しました。

期間の初めは、全米各州が経済活動を段階的に再開し米国景気の回復期待が高まったことや、2020年5月の雇用統計の非農業部門雇用者数が、減少の市場予想に対し大きく増加したことなどから、米国株式市場は上昇し、BDC市場も上昇しました。6月中旬から下旬にかけては、米国連邦準備制度理事会（FRB）が個別企業の社債購入の開始を発表したことや、5月の小売売上が市場予想を上回って回復したことなどが株価の上昇要因となったものの、FRBが、失業率は新型コロナウイルスの感染拡大前の水準を大きく上回り高止まりするとの予想を発表したことや、新型コロナウイルスの感染再拡大を受けた一部の州における規制の再強化により、経済活動の早期正常化への期待が後退したことなどから、米国株式市場は下落し、BDC市場も下落しました。

期間の半ばは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて米国経済活動の正常化が遅れるとの見方などが株価の重しとなったものの、経済指標が市場予想を上回ったことや、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの研究開発の進展を示す発表や報道が相ついだことなどから、米国株式市場は上昇し、BDC市場も上昇しました。

期間末にかけては、米国大統領選挙でバイデン候補が優勢となり、民主党は下院での過半数は維持したものの、上院での逆転の可能性は後退したとみて、バイデン候補が主張する米国大手IT企業に対する厳しい規制や薬価引き上げ、法人税の引き上げの実現の可能性は後退したと受け止め、米国株式市場は急上昇し、BDC市場も同様に急上昇しました。

（為替市況）

期間中における円／アメリカドル相場は、右記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

（2020年5月21日～2020年11月20日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ハイインカムBDCマザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

（ハイインカムBDCマザーファンド）

引き続き、長期的な収益力、与信引受能力、同業他社に対する相対的な優位性といった企業のファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）に基づいて銘柄選択を行ないました。具体的には、新型コロナウイルスの感染拡大の入り口や感染拡大期に、観光、小売り、外食など新型コロナウイルスの影響を受けやすいセクターにエクスポージャーをあまり持っていないBDCのポジションを集中的に取りました。さらにこの期間中、より良いリスク調整後リターンを生み出す確信度の高いBDCにさらに集中させて投資を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年5月21日～2020年11月20日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2020年5月21日～2020年11月20日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第8期
	2020年5月21日～ 2020年11月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,229

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「ハイインカムBDCマザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（ハイインカムBDCマザーファンド）

米国経済は、2020年第4四半期の残りとして2021年の初めには、さらなる課題に直面する可能性が高いと考えています。多くの州で新型コロナウイルスの感染が急増し、第2波によるロックダウン（都市封鎖）を余儀なくされました。ワクチンの承認とワクチン接種の実施には時間がかかると考えられます。しかし、多くの企業がパンデミック（世界的な大流行）の第2波に直面した場合には、財務面、業務面の両面から、

より良い準備ができていると考えています。2020年第3四半期のBDCの収益は、全体的に予想以上に良好な与信実績を示しており、BDCセクターのバリュエーション（価値評価）は今後の四半期で回復するとみています。このような市場環境のなかでは、これまで評価されていないBDCがアウトパフォームすると考えており、最も魅力的なバリュエーションを持つBDCに徐々にポートフォリオをシフトしてきました。BDCのバリュエーションは、景気回復とワクチンの進展を受けて、今後2四半期にわたって改善していくと考えています。2020年の米国大統領選挙後、投資家が政策環境をより明確にすることで、市場のボラティリティ（変動性）は通常の範囲に落ち着くと考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

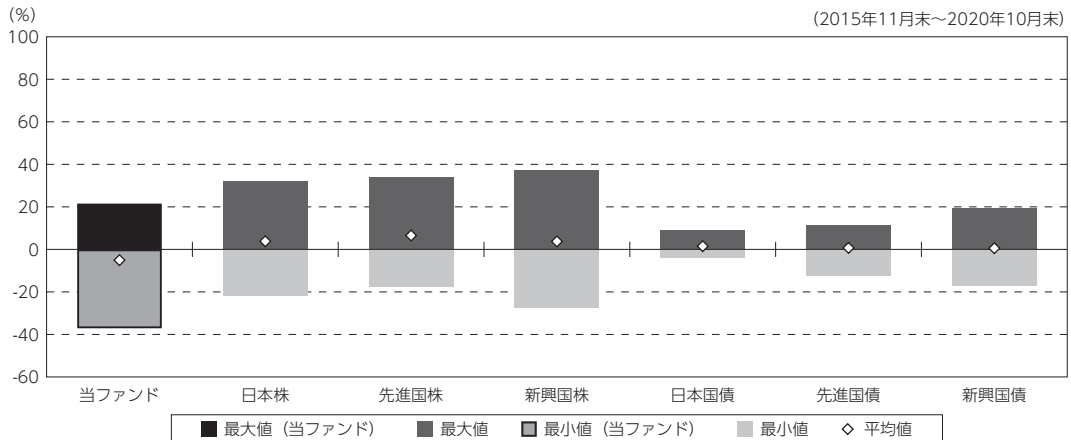
2020年5月21日から2020年11月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／その他資産	
信託期間	2017年2月3日から2032年5月20日までです。	
運用方針	主として、「ハイインカムBDCマザーファンド」受益証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	新・ミュージニッチ米国BDCファンド (為替ヘッジなし・年2回決算型)	「ハイインカムBDCマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ハイインカムBDCマザーファンド	BDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパニー）を主要投資対象とします。
運用方法	主として、米国の金融商品取引所に上場されているBDCに実質的な投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。BDCの組入比率は、高位を維持することを基本とし、BDCの銘柄選定にあたっては、各銘柄毎の利回り水準、流動性に加えて、ファンダメンタルズや割安性などを勘案して行ないます。外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.5	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 37.1	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 5.1	3.8	6.5	3.7	1.5	0.7	0.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年11月から2020年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2018年2月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2020年11月20日現在）

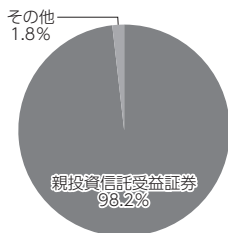
○組入上位ファンド

銘柄名	第8期末
ハイインカムBDCマザーファンド	98.2%
組入銘柄数	1銘柄

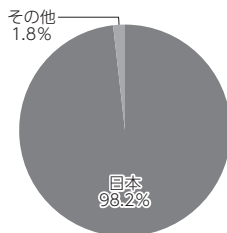
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

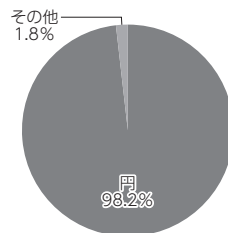
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第8期末
	2020年11月20日
純資産総額	1,153,441,426円
受益権総口数	1,360,020,137口
1万口当たり基準価額	8,481円

（注）期中における追加設定元本額は54,041,801円、同解約元本額は150,699,408円です。

組入上位ファンドの概要

ハイインカムBDCマザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年5月21日～2020年5月20日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	2 (2)	0.022 (0.022)
(b) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.001 (0.001)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	2 (2) (0)	0.019 (0.019) (0.000)
合計	4	0.042

期中の平均基準価額は、9,751円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2020年5月20日現在)

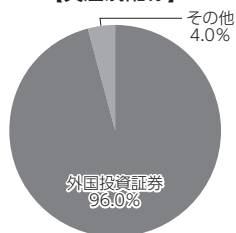
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 ARES CAPITAL CORP -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	19.1
2 MAIN STREET CAPITAL CORP -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	10.7
3 HERCULES CAPITAL INC-BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	7.9
4 GOLUB CAPITAL BDC INC -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	7.3
5 PROSPECT CAPITAL CORP -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	7.2
6 FS KKR CAPITAL CORP-BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	7.0
7 TPG SPECIALTY LENDING INC -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	5.6
8 NEW MOUNTAIN FINANCE CORP -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	4.4
9 SOLAR CAPITAL LTD -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	4.1
10 GOLDMAN SACHS BDC INC -BDC	投資証券	アメリカドル	アメリカ	3.4
組入銘柄数		24銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

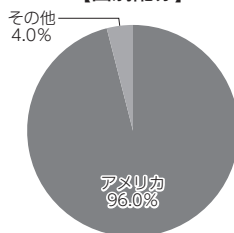
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

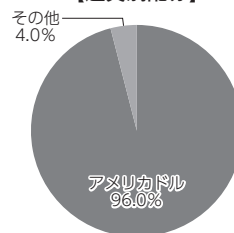
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。